

廣田 信子の紙上ブログ No.180

マンション管理応援歌

先日、私の講座で、地域とのつながり力で注目のサービス付き高齢者住宅「銀木犀」を見学しました。

人生100年時代は、できるだけ住み慣れたマンションで暮らしたいと思っても、最後は、見守りや介護がある場所で暮らすことも想定しておかなければなりません。その時に、ここで暮らしたいと思える場所があれば、安心だからです。

数十人が入居待ちをしている人気の「銀木犀」は、木をふんだんに使ったデザイン性が高い空間で施設匂がまったくありません。入り口は開放的で、すぐのところに話題の駄菓子屋があり、87歳の方が店番をしています。たくさん子供たちがやってきて、お菓子を買うだけでなく、施設内で、知り合いの家に遊びに来たかのようにくつろいでいます。奥のテーブルでは、幼児連れのママグループがお茶会をしています。お屋には、銀木犀食堂がオープンし、同じメニューのランチが食べられるので、自然にご近所さんがやって来て交流が生まれます。ここは、地域に開かれた住宅なのです。

入居者の自由を尊重しきることは、できるだけ自分でできるよう、さりげなく見守っています。外出はもちろん自由。食事は、頼みた

頼めばよくて、お寿司をとつて食べるグループがあつたり、来訪した親族とランチを食べたりと自由です。

入居対象は概ね60歳以上。

訪問看護事務所を併設して、介護が必要になつても、介護サービスを利用しながら住み続けられます。

認知症を発症していく

ことも、周囲への暴力などがない限り、暮らしを続けられ

るようサポートします。そ

して、「銀木犀」は、心を込めて「看取り」を行なっています。

でも知られています。こ

こで最期を迎えるとい

う希望があれば、在宅医療の専門医と連携して最後を見取ります。そして、お別れ会で故人を見送ります。

さりげない見守り

これからは、こういった個人の生活が尊重されながら、さりげない見守りの目

があり、地域とつながって暮らせる終の棲家が、主流になっていくのではないかと感じました。入居費用はゼロ。月々の費用は、自分の家を処分するなり、貸すなりすれば、貯えない金額ではありません。こうい

う選択もあるとわかるか

う選択もあるとわかるか